

令和七年十一月句会 お題「試す」田中純一選

令和七年十一月句会 お題「きっちり」勝部乃り子選

八十路です十年日記また買った

千 楽

きっちりとした女房で疲れ切る

アキラ

タメシテガッテン熊と人がハツケヨイ

乃り子

言うべきは言うの姿勢が招く不和

郁 子

試供品信じて求めバッタ物

ちさと

髭剃って髪整えてウェブ会議

健 一

デパ地下の試食さすがに腹三分

英 二

大掃除ルンバきっちり電池切れ

ちさと

マネキンと似ても似つかぬ試着室

健 一

きっちりも過ぎれば人が遠ざかる

広 子

あれこれとサンプルの山未使用で

ミ チ

会葬御礼原稿書いて逝った父

英 二

佳 証明写真納得できるまでトライ

郁 子

佳 老後プランきっちり立てて妻審査

純 一

佳 本心を確かめたくて拗ねてみる

広 子

佳 ぴったりといかず溢れる升の酒

幸 男

佳 ハードルを上げ下げ試す米と中

基 弘

佳 葬儀代払い通帳ゼロが夢

英 二

佳 酒蔵を巡り試飲で暖をとる

幸 男

佳 代打でもグラブスラムして業師

正 清

佳 買わないが御節チラシで夢試食

幸 男

佳 反戦を貫くラストメッセージ

郁 子

秀 冗談を言いつつ本音試す彼

きよな

秀 顔拭いたタオルを畳む大の里

健 一

軸 一か八試してみたい運勢も

純 一

軸 手術あと臓器がひとつ余ってる

乃り子

令和七年十一月 自由吟

正 清

本人にとてもよく似る見切り品
ウォーキングずっと続けて黄泉の旅
続柄に妻とまちがえ凄と書く
初恋の人にばったりバスツアー

樂しみを奪った熊が憎らしい

きよな

霜月半ばきれいな朝顔咲く不思議
女性総理奈良と云われてピンとこず
冷たさに耐えて朝顔我を見る

郁 子

早紀江さんの笑顔みんなが待っている
連立に変化九条揺れ始め
名俳優の最後の舞台反戦劇
いつの世も存立危機が切る口火

歯ぎしりの口のたるさに生きている ちさと

国税なら仕方ないけど酷税は

乃り子

これこそ専守防衛だクマ退治

千 楽

点字器が除（おもむろ）に音さらってく
成仏ができずお位牌苦笑い

かく老いる夫も吾も父母も
老妻のくぼんだ眼 夏終わる

クマ退治九条論はどこへやら
隣町にもやって来た侵入者

スタートに線はみだしてズル決める

万博も済めば誰（だ）れも口にせず

熊の胆のほかは生産性いかに

朝イチの水一杯が長寿呼ぶ

あき朋

傘寿超え不安しかないこの先は

えいじ

十二月勉強会 十二月四日（木）いきいき1階

長寿願い日の出を拝み恵み待つ
前向きに生きる姿にあなかしこ

座談会皆に勧めるストレッチ
病院に付き添うだけで日が暮れる

十三時「寒い」2句 前日迄にアキラまで

自民党核廃絶を忘れるな

病院はまともに生きる良い手本

十二月句会 十二月十五日（月）いきいき2階

急なこと喪中ハガキに二人の名

ひよこ

ホールには私の全て響いてた
頑張ってるリハビリの日々光みる

哲 子

十二月四十分開場 投句ベ十三時十分

二歳の子スマホ見る目が真剣で
幼子の姉妹可愛いまぶしさよ

オフにでも大谷話題沸いている
秋進み小さき庭も赤黄色

「逃げる」えいじ 「楽しい」広子 各二句
司会・句会結果作成当番 乃り子 翌月配布
自由吟、句会前日までに4句をアキラまで

珍しく家族四人で乗る車

秋進み小さき庭も赤黄色

錦秋のゴージャスこころ満たされる アキラ

健 一

五七五で日々の想い・喜怒哀楽を
楽しく詠んでいます

くまモンはさぞや肩身が狭かろう
いろいろとあって今年もあと少し

熊対応最前線はボランティア
はしごする昔居酒屋今医院

新入会員歓迎、入会金無 会費月百円
誰でもできます

野菜券おサカナ券も頼みます

見たくない上位力士の変化技
温暖化何処へ行ったか春と秋

義 雄

ミ チ

句会 毎月第3月曜日 十三時

サユリでしよサナエじや駄目とサユリスト
国葬を授けた神の後始末

他人事とみていた熊が谷むこう
子供らが受け継ぐ星の十年後

会場 いきいきホール二階
*投句も歓迎です お電話ください

熟し柿句に詠む爺を急かす孫

万博で見た夢きつとそこにある
一目惚れ展覧会の肖像画

超スクール眼鏡忘れたピカソ展

090 6961 1292 川柳教室事務局 野々村